ENVIRONMENTAL MANAGEMENT REPORT

33期 2025年度
環境経営レポート

地域資源を循環させ、現場データを次の改善へつなぐ。

今期受入量

16,943 t

2025年7月-2026年6月

CO2排出量（実績）

911,103 t-CO2

電力・燃料から算定

軽油使用量

215,618 L

重機が主要改善テーマ

広島堆肥プラント株式会社

対象期間：2025年7月 - 2026年6月

作成：2026年9月

CONTENTS

目次

01 ご挨拶

02 環境経営理念・環境経営方針

03 会社概要 / 実施体制

04 許可・登録 / 設備概要

05 主な環境負荷の過去値

06 中長期目標 / 今期管理基準

07 33期間中の実績

08 月次データ / 原単位 / 燃費

09 環境経営計画及び取組結果

10 環境関連法規の遵守状況

11 代表者による全体評価と見直し

12 環境経営活動の紹介 / 次年度重点テーマ

01 / MESSAGE

ご挨拶

「地域と地球にやさしい企業」であり続けるために

当社は、産業廃棄物中間処理業者としての社会的責任を果たすべく、エコアクション21への取り組みを継続してまいりました。今期は、従来の電力・燃料・水・廃棄物の総量管理に加え、受入量に対する原単位や、車両と場内重機を分けた燃料管理を進めました。

収集運搬車については原単位の改善が確認でき、肥料配達車についても独立管理を開始したことで、車両部門の実態をより明確に把握できるようになりました。一方、場内重機については年間を通じて目標原単位を上回る傾向が続き、軽油使用量全体の未達要因として重点的に改善すべき課題が明確になりました。

堆肥品質では、一次発酵業務のチェックリスト体制を導入し、温湿度計と発酵温度の相関を記録するなど、経験に依存した管理から再現性のある工程管理への移行を進めています。また、2027年度の栽培実証、ペレタイザーによる肥料登録、菌体リン酸肥料の登録を見据え、国内での利用普及に向けた準備を進めています。

次年度も、環境負荷低減と生産性向上を別々の課題とせず、現場データを活用しながら一体的に改善してまいります。地域資源を価値に変え、再資源が地域の未来を支える社会の実現に向け、社員一丸となって取り組んでまいります。

33期 HIGHLIGHTS

受入量	**16,943 t**	年間合計
電力	**648,365 kWh**	年間目標内
軽油	**215,618 L**	年間目標超過
水	**1,590 m³**	年間目標内

代表　植村 浩太郎

今期実績・取組内容に基づくレポート用総括文。

02 / POLICY

環境経営理念と環境経営方針

環境経営理念

広島堆肥プラント株式会社は、自然環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであることを常に認識してその保全に努め、環境に配慮したより良い事業活動を行うことを基本理念とします。当社が産業廃棄物の収集運搬及び有機肥料の製造販売を事業活動の主業務としていることを踏まえ、産業廃棄物のリサイクルの推進と循環型社会の**構築に貢献**します。

1. 当社の事業活動における環境負荷を明確にし、**経済動向を踏まえながら環境経営の継続的改善を推進**し、環境負荷の低減に努めます。

2. 以下の項目を重点管理項目として環境保全に有効な業務改善を実施します。

- ✓ 二酸化炭素排出量の**削減**に努める。
- ✓ 自社の廃棄物の**削減**や受託廃棄物の**再資源化**に努める。
- ✓ 水使用の現状を把握し、**適切**な**水使用**に努める。
- ✓ 製造する堆肥の品質を均一に保ち、周辺地域および堆肥が使用される農地の**環境配慮**を徹底する。

3. 環境関連法規制等の遵守、及び官庁・地元との約束事を誓約します。

4. 地域とのコミュニケーションを図り環境保全を推進します。

5. 環境にやさしい有機肥料の製造と販売を推進します。

この環境経営方針は全社員に周知します。

策定日：令和6年9月1日　代表 植村 浩太郎

03 / COMPANY

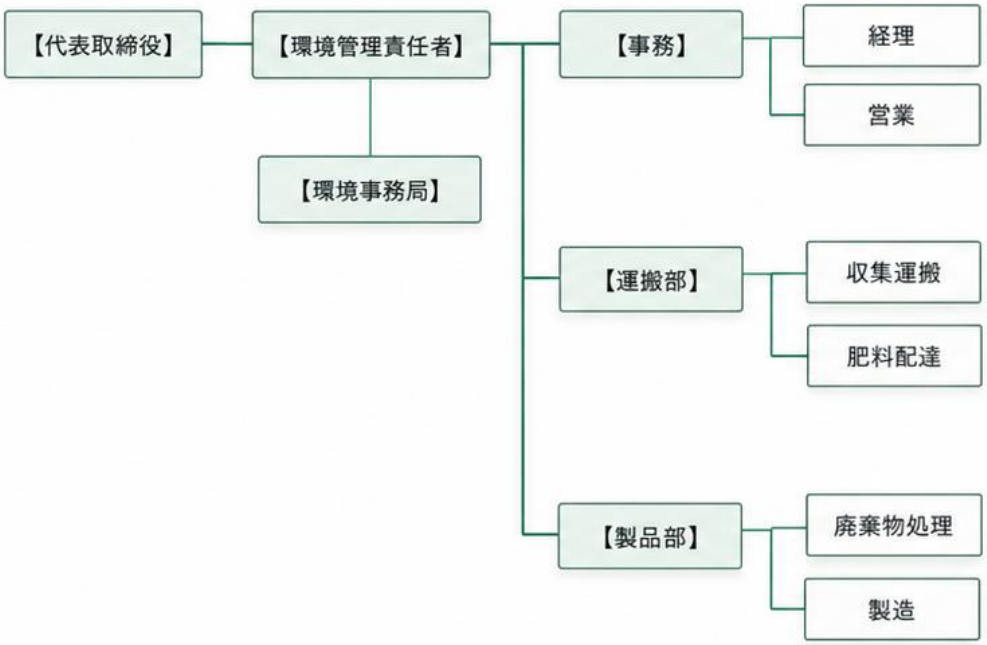
会社概要 01

項目	内容
名称・代表者	広島堆肥プラント株式会社 / 代表取締役社長 植村 浩太郎
所在地	本社・中間処理工場 広島県廿日市市浅原甲962-2
環境管理責任者	大橋 洋稔 / TEL 0829-72-2410 / E-Mail info@htaihiplant.jp
事業内容	産業廃棄物収集運搬業 / 産業廃棄物中間処理業 / 肥料の販売
法人設立年月日	平成6年4月15日
資本金	1,000万円
事業年度	7月 - 翌年6月
33期受入量	16,943 t（2025年7月-2026年6月の月別受入量合計）

会社概要 02 - 実施体制 / 役割・責任・権限

制定日：2022 年 7 月 1 日　再確認：2026 年 7 月 1 日

実施体制



区分	役割・責任・権限
代表取締役	企業理念・環境理念・環境経営方針を決定 環境管理責任者及び各部門責任者任命 環境経営システムの資源準備 システムの評価と見直しを行い、必要な取り組み事項を環境管理責任者に指示 環境経営活動の評価と指摘と是正確認 社内情報の外部公開可否の決定 環境経営レポートの承認
環境管理責任者	環境経営目標及び環境経営計画を承認 環境経営システム全体の構築 環境経営マニュアルの作成と変更 事務局からの報告内容を確認 環境関連法規の確認・整理 緊急時における対応を整示 環境経営全般の運用を確認 代表取締役へ運用状況を報告 環境経営レポートの確認
各部門責任者	各部門における教育訓練改革の策定及び実施 環境経営方針、環境経営目標及び環境経営計画を従業員に周知 環境経営目標・計画の実行及び推進状況の把握を行い、事務局へ報告 部署環境経営目標を策定・実行した場合は、併せて事務局へ報告 部署に関連する法規制を遵守
環境事務局	環境への負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 環境関連法規制登録一覧表の作成 環境経営目標、環境経営活動計画書案の作成 教育訓練・目標計画を策定 環境経営レポートの編集 環境経営システムの運用を推進 環境負荷の原因となる活動を特定 文書及び記録を管理 外部からの問い合わせに対応 各部門責任者からの報告を収集し、環境管理責任者へ報告
全従業員	環境管理責任者、事務局及び当該部署長の指示に基づき行動

04 / PERMITS

会社概要 03 - 許可の内容

広島県｜産業廃棄物処分業許可



処分業許可

許可番号	第03421035312号
許可年月日	令和8年1月16日
有効期限	令和15年1月15日
許可品目	汚泥、廃酸（有機物に限る）、廃アルカリ（有機物に限る）、木くず、動植物性残渣、動物系固形不要物及び動物のふん尿（許可証記載の除外条件を含む）
処理方式	中間処理（発酵）／処理能力 50t/日

広島県｜産業廃棄物収集運搬業許可



収集運搬業 許可

許可番号	第03401035312号
許可年月日	令和8年1月16日
有効期限	令和15年1月15日
許可品目	燃え殻、汚泥、廃油（有機物に限る）、廃酸（有機物に限る）、廃アルカリ（有機物に限る）、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残渣、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず、陶磁器くず、がれき類及び動物のふん尿（許可証記載の除外条件を含む）

山口県｜産業廃棄物収集運搬業許可



収集運搬業 許可

許可番号	第03500035312号
許可年月日	令和8年4月20日
有効期限	令和15年4月4日
許可品目	汚泥、動植物性残渣（許可証記載の除外条件を含む）
事業区分	積替え又は保管を除く

中国四国農政局｜再生利用事業登録証明



再生利用事業登録

登録番号	34-6-3
登録年月日	令和4年12月13日
有効期限	令和9年12月13日
事業内容	肥料化事業
事業場	広島堆肥プラント株式会社　佐伯工場

04 / PERMITS

会社概要 04 - 肥料登録 / 収集運搬車両

区分	普通肥料1号	普通肥料2号
登録番号	生第80450号	生第104758号
登録年月日	平成12年10月1日	平成30年9月10日
登録有効期限	令和9年9月30日	令和9年9月9日
肥料の種類	汚泥発酵肥料	汚泥発酵肥料
肥料の名称	大地の糧	有機入り発酵肥料2号
製品図		

車種	保有台数
2tダンプ車	1
3tユニック車	1
4t平ボディ車	2
6tロール車	2
7tロール車	2
10tダンプ車	3
10tバキューム車	1
合計	12台

今期は、2027年度の栽培実証、ペレタイザーによる肥料登録、菌体リン酸肥料の登録を達成したのち、廿日市市内で農家への普及を進める流れを検討しています。ベトナム取引は継続し、出荷数量は好調に維持しています。

04 / FACILITY

会社概要 05 - 中間処理施設 / 設備概要 / 処理実績

項目	内容
中間処理施設の種類	有機性廃棄物資源化施設
処理する廃棄物	動植物性残渣、有機性汚泥（食品工業汚泥、下水汚泥）
処理能力	50t/日（8h）
処理方式	発酵処理式
受入設備	原料保管場 426m³
発酵処理施設	一次発酵場 2,011m³
熟成発酵施設	二次発酵場 2,622m³ / 三次発酵場 478m³
袋詰め設備	ホッパー、計量器付き袋詰め機、アームロボット、ラッピング機

33期 受入量

16,943 t

月別受入量合計

前年度 受入量

16,913 t

2024年度レポート掲載値

今年度 再資源化量

3,260 t

月別再資源化量合計

04 / FLOW

会社概要 06 - 廃棄物の中間処理・堆肥化フロー

1 収集運搬
委託・自社

2 受入・貯留
原料受入

3 一次発酵
約20日

4 二次熟成
3か月以上

5 三次熟成
熟成工程

6 篩い
異物・木片調整

7 製品保管
袋詰め前

8 袋詰め
製品化

9 農家
農地へ還元

原料受入後、発酵・熟成を経て堆肥化し、篩い・製品保管・袋詰めを経て農家へ供給します。今期は一次発酵業務のチェックリスト体制を導入し、温湿度計と発酵温度の相関表を構築するなど、発酵工程の再現性向上に向けた管理を強化しました。

05 / HISTORY

主な環境負荷の過去値

項目	単位	29期 2021/7-2022/6	30期 2022/7-2023/6	31期 2023/7-2024/6	32期 2024/7-2025/6	33期 2025/7-2026/6
二酸化炭素排出量	Kg-CO2	906,710	901,616	826,521	884,205	911,103
電力使用量	kWh	703,295	676,248	638,271	610,141	648,365
ガソリン使用量	L	384	389	386	352.62	453.1
軽油使用量	L	175,070	180,021	191,866	219,083	215,618
灯油使用量	L	2,748	2,476	1,897	2,559	1,885.7
水使用量	㎥	1,217	1,210	1,411	1,230	1,590
一般廃棄物排出量	kg	516	250	260	360	360
産業廃棄物排出量	kg	7,880	2,800	1,450	1,450	1,450

注：29期の電力・ガソリン・軽油・灯油・廃棄物の「906,602」は前年度レポート掲載値をそのまま転記しています。33期CO2排出量（*）は今期の実績値と係数（電力0.511kg-CO2/kWh、ガソリン2.32、軽油2.58、灯油2.51kg-CO2/L）から算定した値です。

06 / TARGET

中長期目標 / 今期の管理基準

項目	3ヵ年参考基準	33期実績	34期修正目標	35期目標	36期目標
CO2排出量	868,040kg	893,393kg	880,562kg	873,549kg	868,000
電力	632,259kWh	648,365kWh	645,000kWh	642,000kWh	639,000
ガソリン	397L	453.1L	450L	445L	440
軽油	208,856L	215,618L	213,462L	209,200L	206,000
重機軽油	17,254L	115,740L	114,583L	112,300L	110,500
トラック軽油	7,402L	99,878L	98,879L	96,900L	95,500
灯油	2,114L	1,885.7L	1,900L	1,880L	1,870
水	1,331.6	1,590m³	1,590m³	1,580m³	1,570
一般廃棄物	327kg	360kg	360kg	355kg	350
産業廃棄物	1,450kg	1,450kg	1,450kg	1,450kg	1,450

目標値の是正

基準値
原則は直近3ヵ年（31〜33期）平均を参考。軽油内訳・水は区分管理や測定条件の変化があるため、33期実績を暫定基準として扱う。

下方修正
対象は主にCO2排出量・軽油全体・重機軽油。現行34期目標は33期実績との乖離が大きく、受入量・場内作業量との連動を踏まえると実現性が低い。

削減率
34期は急激な削減ではなく、実行可能な1〜2%改善を基本に設定。軽油は総量に加えて原単位（全体12.5L/t以下、重機6.7L/t以下、トラック5.8L/t以下）で評価。

維持項目
灯油・水・廃棄物は無理な削減よりも、現状維持・計測精度向上・作業標準化を優先する。

注：CO2排出量は電力・ガソリン・軽油・灯油の目標値から算定（電力0.511kg-CO2/kWh、ガソリン2.32、軽油2.58、灯油2.51）。

07 / RESULTS

33期中の実績 - 年間集計

評価項目	単位	基準値	年間目標	今期実績	達成度	評価
電力使用量	kWh	672,605	659,153	**648,365**	101.7%	達成
ガソリン使用量	L	522	516	**453.1**	113.9%	達成
軽油使用量（全体）	L	191,866	188,029	**215,618**	87.2%	未達
軽油（重機）	L	74,231	72,746	**115,740**	62.9%	未達
軽油（トラック）	L	117,635	115,283	**99,878**	115.4%	達成
灯油使用量	L	2,374	2,315	**1,885.7**	122.8%	達成
水使用量	m³	1,633	1,598	**1,590**	100.5%	達成
一般廃棄物	kg	360	360	**360**	100.0%	達成
産業廃棄物	kg	3,863	3,805	**1,450**	262.4%	達成

定性目標

堆肥の品質管理：一次発酵チェックリスト導入、未発酵品質なし、重金属計測値も問題なく推移。　肥料拡販：ベトナム取引継続、国内普及に向けた栽培実証・肥料登録を計画。　地域活動：例年通り実施し、交流会館との連携を強化。

07 / RESULTS

二酸化炭素排出量 - 今期実績

電力

331,315 kg-CO2

0.511kg-CO2/kWh

ガソリン

1,051 kg-CO2

2.32kg-CO2/L

軽油

556,293 kg-CO2

2.58kg-CO2/L

灯油

4,733 kg-CO2

2.51kg-CO2/L

排出量合計

893,392 kg-CO2

893.4 t-CO2

構成

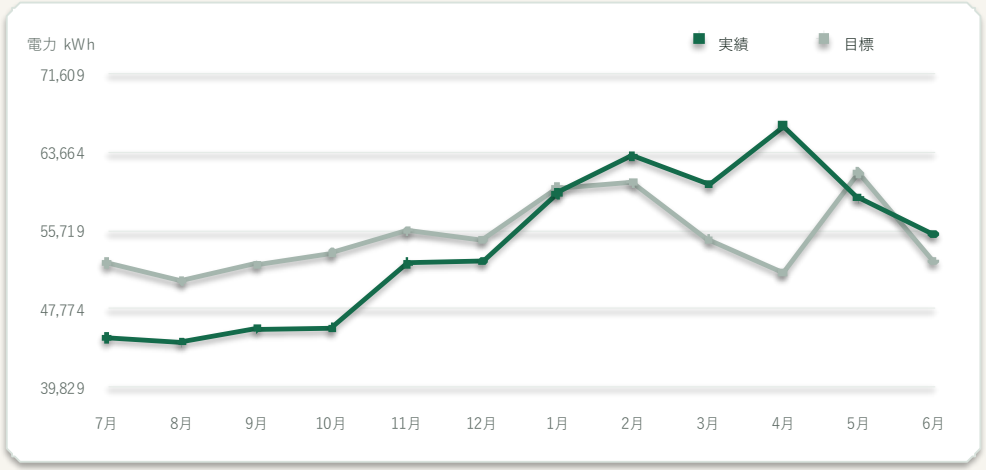
軽油 62.3% / 電力 37.1% / その他 0.6%
軽油が排出量の最大構成要素であり、重機改善がCO2削減にも直結します。

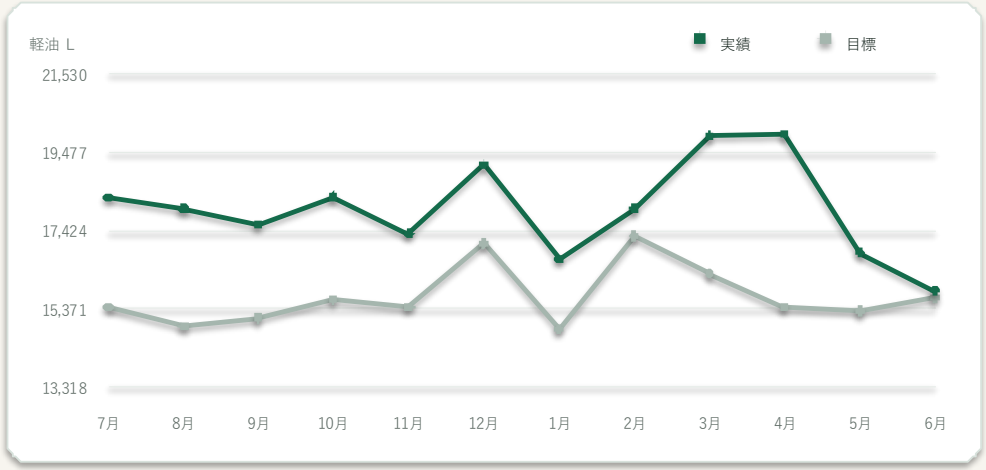
算定上の留意点

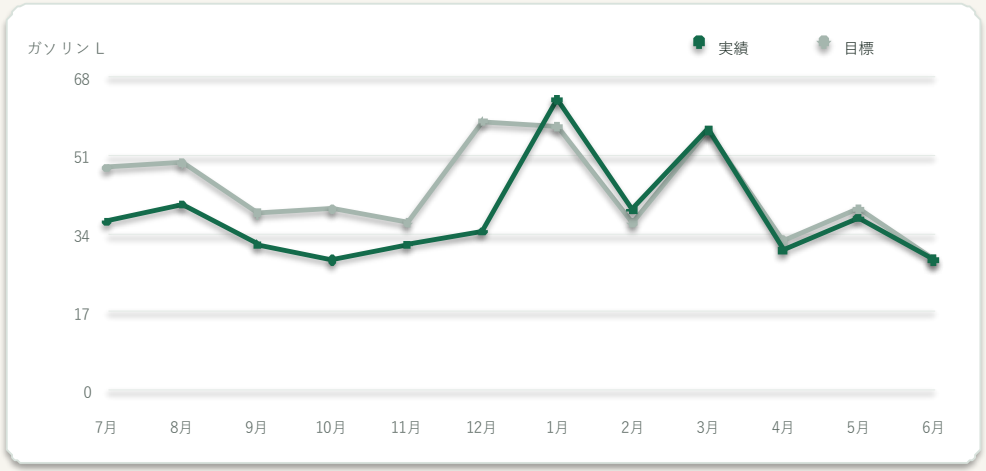
今期実績は月別実績と資料記載の排出係数を用いて算定しています。電力は中国電力の2023年度調整後排出係数0.511kg-CO2/kWh、ガソリン2.32kg-CO2/L、軽油2.58kg-CO2/L、灯油2.51kg-CO2/Lです。前年度レポートや月別目標欄には異なる年度の電力係数が併記されているため、本ページでは今期実績の係数を統一して使用しています。

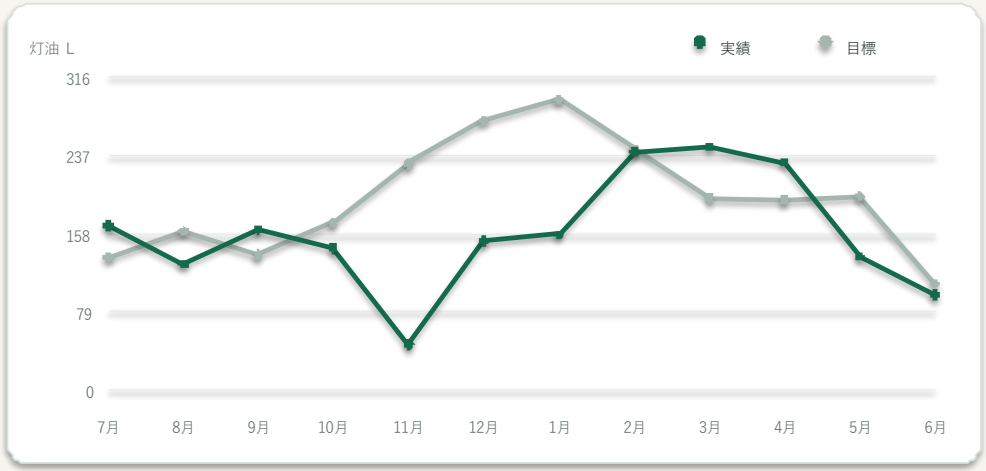
08 / TREND

エネルギー使用量 - 目標と実績の比較



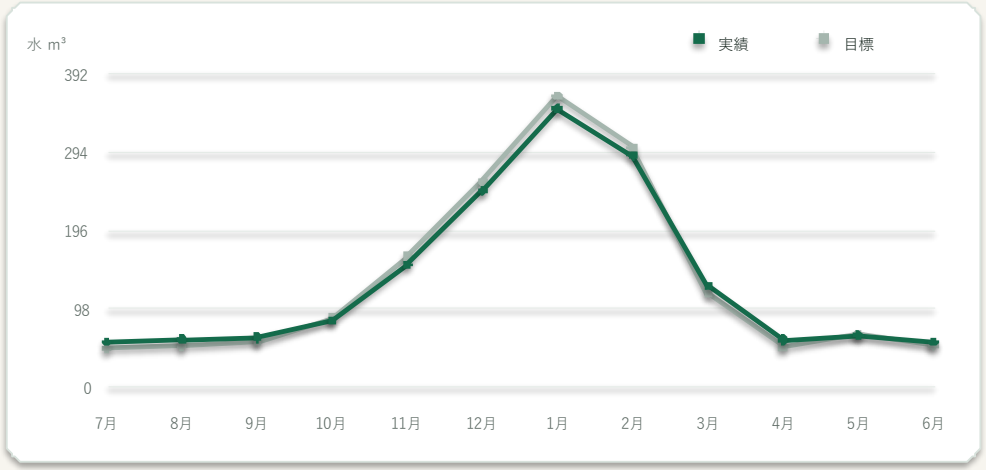


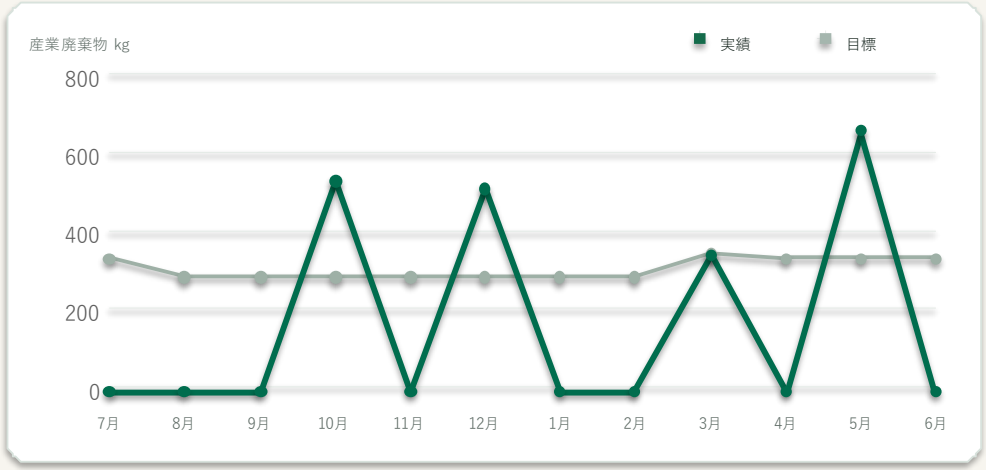




08 / TREND

資源使用量 / 水・産業廃棄物 - 目標と実績





09 / PLAN REVIEW

環境経営計画及び取組結果 01

区分	取り組み計画	達成状況	次年度
電力	未使用時の照明消灯	○	継続
	エアコンの温度設定の見直し（暖房27℃、冷房25℃）	○	継続
	未使用時のOA機器の電源オフ	○	継続
	退社時に消灯確認	○	継続
	エアレーションの管理	○	継続
燃料/全社	アイドリングストップの実施	○	継続
	急のつく運転の禁止	○	継続
	エコドライブの徹底	○	継続
	制限速度を守る	○	継続
	軽油を収集運搬車・肥料配達車・場内重機に区分して管理	○	継続
	各区分の軽油使用量・原単位を月次確認	○	継続
	四半期ごとに目標との差異要因を確認し改善策を検討	○	継続
製造部	重機等の定期点検・メンテナンス	○	継続
	重機ごとの給油量・アワーメーターを記録	○	強化
	工程・稼働時間を記録し処理量当たり軽油を把握	○	強化
	アイドリング・不要移動・重複作業を削減	△	強化
収集運搬	車両の使用前点検／定期点検・グリスアップ	○	継続
	走行距離・給油量・燃費を把握／効率的ルート設定	○	継続
肥料配達	走行距離・給油量・燃費を分けて把握／配送集約	○	継続
営業	効率的な営業ルート／走行距離・燃費把握	○	継続

評価記号：◎よくできた / ○まあまあできた / △あまりできなかった / ×全くできなかった。今期結果・33期計画を統合して記載。

09 / PLAN REVIEW

環境経営計画及び取組結果 02

区分	取り組み計画	達成状況	次年度
灯油	洗車機のヒーターをOFF設定で基本は使用	△	継続・効率化
	休憩室の統合化を図る	○	継続
	不必要時のストーブ停止	○	継続
水	下ろし場で産業廃棄物を9割以上落とす	○	継続
	効率的な洗車の実施	○	継続
一般廃棄物	両面・縮小コピー、詰替用品、封筒リユース、分別、ペーパーレス	○	継続
産業廃棄物	袋詰め機械の圧着設備管理／パレット損傷防止／収集用缶専用カバー	○	継続
堆肥品質	目標発酵温度の設定と管理	△	強化
	水分管理（色調・天候に合わせた水分含有率管理）	○	継続
	エアレーション管理（ブロア・パイプ清掃）	○	継続
	攪拌作業の平準化	○	継続
肥料拡販	新規国内顧客の獲得	○	継続
	ベトナム取引先ごとのニーズ把握・柔軟な対応	○	継続
	試験栽培を継続実施	○	継続
地域貢献	地域情報を把握し行事へ参加（1回/年）	○	継続

堆肥品質：未発酵の品質はなく、重金属計測値も問題なく推移。一方、季節性・原料配合・混ぜ方・エアレーション等が重なり発酵温度が上がらない現象があり、一次発酵チェックリストや温湿度・発酵温度相関管理を導入。肥料拡販：ベトナム出荷は好調。ホームセンター供給は場内設備修繕の関係で停止。

10 / COMPLIANCE

環境関連法規等の遵守状況

法規制	遵守すべき要求事項	評価
廃棄物処理法	産業廃棄物処理業の許可・更新の管理	○
悪臭防止法	規制基準の遵守	○
肥料取締法	許可証・登録の許可・更新管理	○
消防法	設備点検・消火訓練の実施	○
労働安全衛生法	全ての労働者の健康と安全の確保	○
大気汚染防止法	自動車排ガス等の排出抑制	○
資源有効利用促進法	廃棄物の発生抑制	○
フロン排出抑制法	定期点検の実施	○
水質汚濁防止法	工場排水の環境負荷を低減	○
道路運送車両法	車検の更新等	○

評価結果

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。なお、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありませんでした。

11 / MANAGEMENT REVIEW

代表者による全体の評価と見直し・指示 01

当社では、持続可能な環境経営の実現に向け、各取組の具体化と効果検証を進めてきました。今期は、軽油使用量を収集運搬車・肥料配達車・場内重機に区分し、処理量当たり原単位で評価する体制へ移行したことで、改善すべき対象がより明確になりました。

収集運搬車は原単位の改善が確認でき、肥料配達車も独立管理によって使用実態を把握できるようになりました。一方で、場内重機は全四半期で原単位未達となり、軽油使用量全体の主要課題です。次年度は重機別の給油量・アワーメーター・作業工程を記録し、待機・アイドリング・場内移動・重複作業を削減することを指示します。

電力については年間総量は目標内であるものの、後半に原単位の悪化がみられました。受入量と設備稼働時間、エアレーション等の運転時間の関係を分析し、設備別の稼働状況を確認して改善につなげる必要があります。水・灯油については、洗車場増設や冬季運用の影響を踏まえ、効率的な洗車手順と不要時停止を継続します。

堆肥品質では、一次発酵チェックリストや温湿度・発酵温度の相関管理を導入したことを評価します。今後はデータを蓄積し、季節性や原料配合、エアレーション条件と発酵品質との関係を整理し、再現性の高い工程管理につなげることを求めます。

肥料の利用拡大については、栽培実証、ペレタイザーによる肥料登録、菌体リン酸肥料の登録、国内農家への普及を一体的に進め、環境経営と事業成長の両立を図ります。

11 / MANAGEMENT REVIEW

代表者による全体の評価と見直し・指示 02

目標項目	目標値達成	活動計画実施	コメント
電力使用量	○	○	年間総量は目標内。原単位悪化月の設備稼働要因を分析。
軽油使用量	×	○	車両は良好。重機が主要未達要因。重機別給油量・稼働時間の管理を強化。
ガソリン使用量	○	○	営業ルートの効率化を継続。給油実績の記録で評価精度を向上。
水使用量	○	○	年間目標内。洗車場増設による用途増加を次年度目標へ反映検討。
灯油使用量	○	○	年間後半は良好。洗車設備・暖房設備の不要時停止を継続。
一般廃棄物	○	○	月30kgで安定。現在の運用を維持。
産業廃棄物	○	○	発生機会減少により大幅達成。
堆肥品質	○	○	未発酵品質なし。チェックリスト・温湿度相関管理を強化。
肥料拡販	○	○	ベトナム取引継続。国内普及に向け実証・登録を推進。
地域行事	○	○	例年通り実施し、交流会館との連携を強化。

環境経営方針：
軽油使用量の削減に向けたデータの細分化を追加。そのほかの変更の必要性なし、方針を継続。
目標・環境経営計画：軽油管理を原単位・工程別管理へ移行し、電力と堆肥品質に関係するエアレーション・攪拌技術の実証的な管理を継続。
その他：特記事項なし。

ACTIVITIES

環境経営活動の紹介

1 一次発酵の管理強化

一次発酵業務のチェックリスト体制を導入。温湿度計と発酵温度の相関表を構築し、一次発酵場の環境管理を強化しています。

2 軽油管理の細分化

収集運搬車・肥料配達車・場内重機を区分し、月次で使用量・原単位を確認。車両部門と重機の課題を切り分けられるようになりました。

3 品質管理

未発酵の品質はなく、重金属の計測値も問題なく推移。季節性・原料配合・混ぜ方・エアレーション等の影響を記録し、改善につなげます。

4 肥料の利用拡大

ベトナム向け出荷は好調。2027年度の栽培実証、ペレタイザー肥料登録、菌体リン酸肥料登録を経て、市内農家への普及を進める計画です。

5 地域との連携

地域活動を例年通り実施し、交流会館との連携を強化。地域農業・地域経済と環境活動をつなぐ関係づくりを進めます。

6 資源使用の効率化

洗車方法の改善、設備の不要時停止、効率的な重機・営業・収集運搬ルートの設定を継続し、水・灯油・燃料の使用効率を高めます。

12 / NEXT

次年度重点テーマ / データ管理方針

01 重機燃料の見える化

重機別の給油量・アワーメーター・稼働時間・作業工程を記録。**原単位**(L/tとL/h)で改善効果を評価。

02 設備稼働の最適化

電力原単位悪化月について、受入量・設備稼働時間・エアレーション運転時間の関係を分析。

03 洗車工程の標準化

洗車設備の使用時間、温水利用、洗車前後の準備を標準化し、水・灯油の使用量を抑制。

04 発酵品質のデータ化

温湿度・発酵温度・水分・通気・攪拌条件を記録し、季節変動を含めた再現性の高い品質管理へ。

05 循環肥料の社会実装

栽培実証、ペレット化・肥料登録、菌体リン酸肥料登録、国内利用先の拡大を一体的に推進。

ACTIVITY

一次発酵場のオペレーション平準化



現場メンバーで課題と作業手順を共有

一次発酵場の運用を平準化するため、現場会議を実施。属人化しやすい作業の洗い出し、確認項目の整理、申し送りのルール化を進めました。



2026年度
赤丸発酵・エアレーション作業
週間チェックシート（記選用版）

持ち場の主担当者名：＿＿＿＿＿＿

確認者：＿＿＿＿＿＿

チェック項目	月	火	水	木	金	土	日
	記号：	記号：	記号：	記号：	記号：	記号：	記号：
その日に使う発酵槽の番号							
【発酵槽点検】							
①各場合の全体の発酵槽の温度測定はできましたか？（温度温風用）	□	□	□	□	□	□	□
発酵槽温度（℃）メモ欄							
②エアレーションやブレーカーが落ちていないか確認できましたか？（落ちていた場合は水分量等を記載し、写真を撮ってグループチャットに共有）	□	□	□	□	□	□	□
【日中作業】							
③その日の処理を全て使い切りましたか？	□	□	□	□	□	□	□
④パイプの清掃を実施できましたか？（清掃を実施した場合はグループチャットでも共有）	□	□	□	□	□	□	□
⑤パイプ接続の有無を確認できましたか？（破損していた場合はグループチャットで共有）	□	□	□	□	□	□	□
写真添付：パイプ交換を実施しましたか？（パイプ交換に新しいパイプ交換は個人グループチャットで共有）	□	□	□	□	□	□	□
⑥エアレーション（ミキシング）の異音（聞き取り No.6）までの間から聞かれた場所をご記入ください？	□	□	□	□	□	□	□
【終了時】							
清掃用を清掃の際に忘れて置かれましたか？	□	□	□	□	□	□	□
清掃が実施しないように忘れて置かれましたか？	□	□	□	□	□	□	□
⑦タイヤショベルのバケットが正のグリスはさせましたか？（4箇所ほど） ※不明な場合は□のQRコードより追加説明を確認ください。	□	□	□		□		
写真添付： P、A、B点場合、清掃のエアクリーナー（フィルター）は使える場合、紙内の清掃（エアコンや高圧を使え）、グリスはさしこみ（注記が実施）を実施できましたか？ ※使用済みグリスのみ実施。 ※グリスさしこみ場所が不明な場合は□のQRコードより追加説明を確認ください。		□		□		□ （エンジンオイル交換→CHECK！）	
写真添付： 清掃点検にチェックを付けられない場合はグループチャットで申し送りましたか？	□	□	□	□	□	□	□
【参考欄】 例：６の日の異常・特記事項、引き継ぎなど記載							
【注意事項】	1. 発酵槽にチェックを付けられない場合は、必ず個人グループチャットで報告・申し送りを実施いたします。 2. 一次・二次発酵メンバーの定例ミーティング（毎週月曜日15時30分に実施）に参加する（やむを得ない場合は欠席してください） 3. ローテーティング場所などの実施例です 4. もし「発酵ができていない、異臭が変って改善のスペースがない」などの課題が生じた際はつでも良いのでチャットに報告ください。 5. 個人作業に入られる場合も原則チェックを付けてください！お忙しさのあまり**発酵が実施が生じている場合はかならず**原因の発表にグループチャットにて報告ください！						

POINT

会議内容をチェックシートへ反映

- 温度測定、エアレーション確認、乾材管理、パイプ清掃、グリスアップ、終業時確認などを整理。
- 週間チェックシートに落とし込み、誰が対応しても同じ基準で運用できる仕組みを整備。
- 毎週の定例ミーティングと申し送りに接続し、改善点の見直しを継続。

ACTIVITY

エアレーションパイプの清掃・破損チェック



ACTION

現場での標準作業として定着

- 一次発酵場のエアレーションパイプを清掃し、送気経路の状態を確認。
- 破損・詰まり・劣化を点検し、不具合の早期発見と予防保全に活用。
- 会議とチェックシートで決めた内容が、現場作業へ反映されていることを示す実践例。

設備の安定稼働は、発酵管理の安定化と作業品質の均一化につながります。

ACTIVITY

重機メンテナンスの標準化



RULE

重機点検を日常業務へ組み込み

- 平準化の取組の一つとして、重機メンテナンスを定例化。
- 点検・清掃・給脂などをルール化し、設備トラブルの予防を図っています。

EFFECT

期待する効果

- 重機の状態を把握しやすくなり、作業品質の均一化につながる。
- 安全性向上とダウンタイム低減により、安定的な発酵場運営を支える。

ACTIVITY

国内農家への肥料配達と申し送り



FIELD

大規模米農家との現地コミュニケーション

- 国内農家への肥料配達時に、現地で利用状況や圃場条件を確認。
- 配達だけで終わらず、現場で申し送り・対話を行い、利用先との情報共有を実施。
- 利用先の声や現場情報を把握し、継続利用・品質改善・提案活動へ反映。

「届ける」だけでなく、利用先と関係をつくる営業・配達活動の一例です。

ACTIVITY

外気温・湿度の測定による発酵管理の高度化



DATA

外気環境と発酵温度の関係を検証

- 一次発酵場の発酵温度との因果関係を今後確認するため、外気温・湿度の測定を開始。
- 季節・天候が発酵状態へ与える影響を、経験則だけでなくデータでも把握していきます。

CHECK

今回の測定例

外気温	湿度
32.9 ℃	42 %

今後は発酵温度データと重ね、エアレーション・水分管理の改善へ活用。

ACTIVITY

地域交流館『あさみら』での企業紹介



COMMUNITY

地域とのつながりを育む企業紹介

- 廿日市市浅原の地域交流館『あさみら』で実施された地域企業紹介企画へ協力。
- 働くメンバーの顔や役割、人柄が伝わる掲示物を通じて、地域住民に会社を身近に感じてもらう機会となりました。
- 地域に根ざした企業として、地域社会とのコミュニケーションと認知向上につながる取組です。

環境経営活動

ACTIVITY

ホームページのリニューアル



WEB

情報発信基盤の整備

- 会社の事業内容・業許可・製品情報・活動レポート等を見やすく整理したホームページへ刷新。
- 『有機資源の価値創出。』『堆肥化で循環型社会を、実装します。』というメッセージを前面に出し、企業の方向性を明確化。
- 採用・営業・地域理解の向上に加え、環境経営活動を社外へ伝える媒体としても活用。

今後も活動実績の見える化を継続し、情報発信を強化します。